

１７日の新興分教会の月次祭の夕方から、花粉症が鼻炎になりまして、鼻が詰まって息苦しくてたまりません。鼻声で申し訳ありませんが、ご命を頂きましたので、しばらくの間、お付き合い下さいますようお願い申し上げます。

○ 只今、拝読させて戴いた諭達は、現真柱様が、４年前の立教１６１年（平成１０年）１０月２５日に真柱の理をご継承戴いた時に、全教にお出し戴いたものです。

そして、その内容の周知徹底にと、３年前に全国で、「ようぼく躍進地方講習会」が開催されました。この西吉野支部では、大淀町中央公民館と、ここ下市分教会と十津川分教会の３会場で開催されました。まだご記憶にあると思います。

そして、昨年は、諭達の精神を、その心を実行に移す、「実動の年」としてつとめさせて頂きました。今年もより一層「実動」させて頂く時旬であります。

諭達にお示し戴いていきますように、立教の本旨は、親神様が「世界一列をたすけるために天降った」と、世界中の人間を余すことなくたすけ上げることにあります。と、力強くお示し戴いています。

「世界たすけに向かうことこそ、この道を信ずる者

の第一の務めである」と、世界たすけをすることだ
とお示し頂きました。

お道の信仰をさせていただいているお互いは、親神
様の思召を具現化しなくてはなりません。

人をたすける心にならせて頂くこと、たすけ一条の
心になることです。

たすけ一条の道の上に、「つとめとさづけ」をお教
え頂きました。

「つとめ」とは、ご本部でつとめられるかぐら
づとめではありますが、今、つとめさせて頂いた月次祭
もかぐらづとめの理を戴いてつとめさせて頂きました
ので、このおつとめで、自分もたすけて頂き、人
様にもたすかって戴くことが出来るのです。だから、
月次祭に参拝して、お互いが、先月の月次祭から、
今日まで、結構に暮らさせて頂いたお礼を申し上げ
ると共に、更に、隣、近所、友人、知人の身上、事
情で苦しんでる方にご守護戴いてもらいたいと、お
願いさせて頂くのですね。

「さづけ」とは、一人ひとりに戴いたおさづけの理
を身上の方にお取り次ぎさせて頂くことです。

おつとめをつとめ、おさづけの理を取り次がせて頂
いていると、親神様のご守護がよく解らせて頂くこ
とができます。自分の心の埃を払って下さることに

も な り ま す 。

諭 達 に 、

「日々、月々のおつとめにをやの理を戴き、病む人におさづけを取り次ぐとともに、常に原典に親しみ、をやの思いを求めて、教えに基づく生き方を心掛けよう。」と、陽気ぐらしの世界になるように、一人一人が教えに基づく生き方を実行することだとお教え頂きました。

教えの一つに「かしもの・かりもの」があります。

私は、身上になって、

生かされている事を、もっと素直に喜ぶことなのだという事に気がつきました。

身上を頂いてから、身体が痺れるようになってから、からだは結構に動き、当たり前のように生活できることが、とても有り難く感じるようになりました。事情、身上を頂く事によって、改めて、頭で解っていたご守護の喜びを、身体で喜べるようになりました。

おたすけに出させて頂いて、身上の方に、おさづけを取り次ぐとき、「私たちの身体は神様の貸し物ですよ。神様からの借り物ですよ。」と、お話します。身上になると、なるほどなあと、良く理解ができます。身体が自由が利かない人ほど良く理解できます

ね。

「かしもの、かりもの」のご教理は何度も何度も聞かせて頂いているが、話だけで本当に心に治まっていなかったんです。今もまだ何処まで解っているのかは解りませんが、自分の意志だけで身体は動かない事だけはよく理解できました。

にんけんハみな／＼神のかしものや
なんとをもふてつこっているやら 三号 41

にんけんハみな／＼神のかしものや
神のぢうよふこれをしらんか 三号 126

このよふハーれつハみな月日なり
にんけんハみな月日かしもの 六号 120

それよりもたん／＼つかうどふぐわな
みな月日よりかしものなるぞ 十三号 46

このはなしにんけんなんとをもっている
月日かしものみなわがこども 十三号 79

身体がかりものですから、この世のもの一切がかり
ものと教えて頂いています。
かりものを喜んで使わせて頂くことがいいんですよ

ね。

先日、私どもの教会の役員さんの奥さんのお祖母ちゃんが100歳で出直しました。100年も元気に身体を貸して頂いていたんです。お葬式に参列させて頂きましたが、村中の方が来られていました。出直しは悲しいことですが、これだけ生きたら、ご苦労様でしたと、お劳いの言葉の方が相応しいかも知れません。

その2週間後に、知人の従兄弟で、しいたけ栽培をしていた方が、菌を植え付ける原木をトラックで運んで来て、降ろそうとしていた時、エンジンをかけたままのトラックがブレーキが甘かったのか、そのトラックとチェーンの付いた重機の間に挟まれて、48歳で即死しました。

人の一生は、ほんとに解らないものです。

お互いの身体はいつまで貸していただけるか解りません。

貸して頂ける間は、喜んで貸して頂きたいものですね。

少し、理屈っぽくなりますが、哲学の世界で、人間の知恵の事を、「自然知」と、「学習知」の二つに分けられています。

「自然知」とは、人間が生まれたときから、神様が

等しく授けて下さった知恵です。人は、誰でも本能として、生まれたときに、神様がインプットしてくれているのです。これを「良心」とも言うことができます。神様は、陽気ぐらしをさせる為に人間を創ったから、誰にでも「知恵知」を持たせてくれています。陽気ぐらしの出来る元のいんですね。例えば、オギャーと生まれたら、教えなくても母親の乳首に吸い付き、等しく、母を慕って生きて来ました。母に放り放しにされたら生きていけません。母を信じきっています。だから幸せなのです「母は、やがて俺に、（私に）働かせて自分は楽をしようと俺を（私を）生んだんだ」なんて、考えません。小さな子どもは、お母さんの顔が見えないとお母さんを捜しています。そして、お母さんに抱きついて行きます。私の孫を見てると良く解りますね。お爺ちゃんやお祖母ちゃんと遊んでいても、お母さんの顔を見ると安心して走って行って抱きついていきます。また、私達は夜寝る時、明日は来ないのではないかと不安をなことなど一切考えないから、スヤスヤ寝られます。これが明日が来るのだろうか心配だったら眠れません。食べる物も毒が入ってるのではないかとなどと考えない。阪神淡路大震災に遭われた方は、しばらくはまた地震が来るかもと不安だったと思います。眠れない人も多く居られたと聞いています。恐怖に怯えないで生きて行く安心して生きる知恵ですね。親を信じ切って、凭れきってる姿こ

そ、人間の知恵の中で一番素晴らしいのです。

自然に神様が、等しく持たせて下さった「自然知」と、もう一つは、「学習知」です。

これは、学校や、職場、社会で身に付ける知恵のことを、「学習知」といいます。学校で学ぶ知識や社会で学ぶ知識、いろいろな人間関係は全てこの学習知です。生まれてから後に学んだ知識という事。繰り返し繰り返し学び、それを信じてしまう。これも生きていく上でとても大切な知恵ですね。善悪を判断したり、社会の仕組みを知ったり、人間関係を勉強したりする上でとても大事な事です。しかし、学校の成績が凄く良かった人でも、素晴らしい名門と言われる大学を卒業していても、知識はあっても知恵が無い人は、いくら頭のいい人でも、物知り博士であっても、本当は頭の悪い人で、暗い人生を送ることになります。学習知だけではダメなんですね。人に騙されてばかりいる人は、騙されるということを経験して、学習してしまい、人を信じない人になってしまう事もあります。

学校の成績が悪くても、自然知に恵まれた人は、明るく、楽しく生きて行きます。

親を無条件で信じて、生きて行ける人ですね。親の喜ぶ顔を見たいと思って生きてる人ですね。そんな子は、親も可愛くてしょうがない。親孝行な子ども

になります。

哲学的考えると、学習知よりも、自然知の方が、遙かにランクは上なのです。

いわゆる、無条件で親を信じている人間の知恵が一番素晴らしいとされているのです。

この道の信仰の素晴らしさは、神と、人間を、親子と教えて下さっています。勿論、神様が人間を創って下さったのですから、親子の関係にあるのは当然と言えます。をやですから、親神様を畏敬の念で崇拝するのではなくて、また、怖がって信仰するものではありません。親しみを持って甘えることができる神様です。

「ようぼくは、をやの名代」ですから、親神様、教祖の心を持っていることが大切です。

おたすけに出させて頂いて、身上の人、事情の人に、まず甘えて頂けるようなおたすけ人にならせて頂くことだと思います。

特に特に、教会長は親心一杯でなくてはならないと思います。教会へ参拝して下さる人にだけに優しくしてはいけませんね。信仰している人も、まだこのお道知らない人にも親心を持って接する事が大切な事は言うまでもありません。

「あの人は、やはり信仰してらっしゃるから素晴らしいなあ」と、言ってもらえるようにならないといけません。お道の信仰をしている人は、明るくて、陽気で、何でも相談出来るやさし人だと言われなくてはなりません。

それは、
いつでも何処でも、喜んで勇んで生きる事でしょうね。

「喜べば喜び事が喜んで喜び集めて喜びに来る」と言います。

喜べる人は、どんな中でも喜びます。そんな喜び上手な人と巡り会えたら楽しくなります。

身上になると喜べない。何んでこんな病気になるんや。神も仏もない。と、思う人もいます。反対に、神がいるから、病気にならせて頂いたと、心の埃を掃除させて頂く機会を与えて頂いたと、喜ぶ人もいるかも知れません。

喜んでいれば、喜ぶことがやってきます。しかし、喜べない、不足の多い人は、不足の多い喜べない人生が待っています。弱り目に祟り目なんて言葉があるぐらいですから。

それは自分の心に都合のいいことがあれば喜べるが、

都合が悪いと喜べないものですね。それでは自分勝手な喜びであり、人に喜びを分け与える事はできません。

遠方の方で、修養科を出られ、検定講習も終わられた、ある男性が、元気にひのきしんをして下さっていたのですが、だんだん顔がむくんで来ました。私は、体重も増えてきたと聞いていましたから、肥えてきたんやで、と答えていたんですが、その顔がもっともっと膨れて来て、赤みを帯びてきました。病院で診察してもらったら、肺の中の静脈に腫瘍ができて、心臓から頭に送り出された血液が心臓に戻る時、肺の中の腫瘍が血管を塞いで、戻ってこれないから顔に血液が溜まってしまっていたんです。やがて、診断の結果、肺ガンであると診断されて、このままでは後3ヶ月です。と言われた。

肺ガンには、大きく分けて4種類あるそうで、この方のガンは、一番進行が速いガンであるとのことでした。本人は若い頃からやんちゃで、身体に墨まで入れていますが、ほんとは気が小さい方だと思ったから、ガン告知をしないように、医者と相談をして治療をして頂く事にしました。

医者の話では、ガンが大きいので、手術は出来ない。コバルトを当てると転移するのが速くなる。化学療法で抗ガン剤を打つのがいいと思う。しかし、抗ガン剤は100%副作用があって、髪の毛が抜けてく

る。口内炎になる。食欲はなくなり、下痢をする。などなど説明がありました。しかもいつ何処に転移するか解らない。衰弱が激しくなる。また、容態の変化で突然死んでしまうこともある。と、聞かされました。しかし、これしか方法がないのならと、抗ガン剤を適用してもらいました。

この方には、奥さんは早くに離婚していませんが、子どもが二人いて、それぞれ結婚をして、関東に住んでいます。しかし、長年会っていない。音信不通。またこの方には姉がいます。この姉夫婦がとても良くてきた方で今まで、この方の不始末を全て肩代わりしたり、尻ふきをしてくれたりで、歳はとってもいつまでも甘えん坊の弟だったんです。その姉から、弟の全ての事は、会長さんご夫妻にお願いしたい。出来るだけのことは、私どもがしますから、弟をよろしくお願いします。と、言われていますので助かって頂きたい。一日でも長生きしてもらいたいと、特に家内は、毎日、その方の身体を拭いたり、愚痴を聞いたり、お世話に通わせて頂いています。そのおっさんは、「会長」「俺は会長が一目見て好きになった。だから、天理教に来たんだ。会長はいつもニコニコ笑ってる。」また「奥様がこんなに親身に、まるで母親のように世話をして下さり、教祖とはこんな方だったのではと、私は奥様を教祖だと思っているんだ。」と、言ってくれている。

その方は、抗ガン剤を使うと、髪の毛が抜けるから

と、床屋で丸刈りにしてきましたが、いっこうに髪が抜けず、食欲は旺盛。衰弱どころか、6階から地下1階の売店や自動販売機のあるところまでまで、一日数回階段で行き来して運動している。

昨日も夕方、病院に寄ったら、「医者も、不思議やと首を傾げてくれている。」と。そして、その方は、「会長、これやこれ。これのお陰で元気なもんや。」と、毎日、お見舞いに来て下さる方々に、おさづけを取り次いでもらってるお陰です。「今日も大教会の島先生が来て下さり、おさづけをして下さった。俺は幸せ者やと思っているんだ」と言っていました。先日は、この方の娘が、子ども（孫）を乗せて、埼玉から、父親の見舞いにやって来てくれました。なんと、16年ぶりの親子孫のご対面。娘は、父親に抱きついていました。帰る時に、本部を案内して、三殿を回ったんですが、こんな素晴らしい天理教に父がお世話になっていたんですね。安心しました。と、言って帰りました。その後、何度か、メールを下さっています。近い内に、主人と一緒にまた来ます。と、言って下さっています。

こんな話をしていれば切りがありませんが、身上者には、おさづけを取り次がせて頂くことが、数々の喜びにつながって来ると思います。

また、事情のおたすけは、おさづけは取り次げませ

ん。ただ、話を聞かせてもらい、心を開いてくださったら、神様のお話を取り次ぐことができますが、なかなか、心を開いてくれないものです。

これはある方と交わした手紙です。

守秘義務がありますので承諾は得てありますので。

修養科を修了しているの知り合いが、修養科に入る前に、犯した罪により逮捕されて留置場に入っていました。その人が留置場で知り会ったという方からの手紙です。

木部真奈美さん、お手紙ありがとうございます。

ボクも初めてあなたに手紙を書きます。

まもなく師走を迎える季節となりました。

一年は、あっという間に過ぎて行きます。年寄りも、若い者も、男も、女も、どこの国に住んでる人も、全て平等に、時は過ぎていきます。お互いに、この時間を、いかに大事に、いかに大切にに使わせて頂くかによって、その人の人生が決まるでしょうね。あなたも今の時間を大切にね。

まず、あなたには、「良かったね。」と言いたい。

「覚醒剤」が原因で、あなたは、今の場所にいると

書いてありましたが、「覚醒剤」を使用するに至った動機はあれこれあったでしょう……。人は、「覚醒剤」が、悪いと言います。もちろんそうです。

「覚醒剤」で滅びる人も多くいますから。

しかし、考えはいつも一つではないんです。人間の心の大きさは、その時々が一番明るく、楽しく、生きる希望を持って考えられるかということです。

あなたは、その「覚醒剤」によって、救けられたのです。あなたは、今後、多くの人のお役に立ち、人を喜ばせて生きる素晴らしい人になるために、

「覚醒剤」を、媒体として、「生きることの尊さ」を知ることになります。だから、あなたは「覚醒剤」に救けられたのです。あなたにとって「覚醒剤」は、今の場所に連れて来るためのお役を果たしてくれただけ。だから、「覚醒剤」とのお付き合いはこれで終わりました。更に、おかあさんと知りあったことで、新たな「たすかる」人間関係ができました。

だから、「良かったね」と言ったのです。

21歳は、まだまだ若い。あなたの人生はこれから始まります。しかし、もう成人した立派な大人ですね。これからは、子どもの考えから、真の大人の考えを身につけなくてはなりません。

世界は、自分さえ良かったら、自分さえお金が儲かったらいい、と自分のことしか考えていませんね。残念ですが、今の世上の一般的な考えでしょうか。外見だけをいくら美しくしても、心が汚かったり、腐っていたのでは、組み合わせられる相手は、その人と同じ心を持った人ばかり。だから、心の中をお掃除しないといけません。そうしないと、新たな考えや、知識も、知恵を身に付きませんか。少しづつ、心のお掃除をしましょうね。

修養科は、是非お勧めします。生きながらにして、生まれ替わったような心になれるところでしょうか。（おかあさんとは、その修養科で知り合いました）そのために、いつでもボクでお役に立てるのでしたら、お声をかけてください。

今、あなたがしている経験、体験は、今後のあなたの人生形成にとっても大切です。しっかり本を読んだり、考えたりして、自分を見つめてください。あなたにくださった「尊い時間」だと思って。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

あなたに めぐりあえて

ほんとうに よかった

ひとりでもいい

こころから そういつてくれる

ひとがあれば

相田みつを

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

お説教は嫌いです。一緒に考え、悩み、苦しみ、お互いに、たすけ合って、励ましあって（ボクはまだ禿げてませんが・・・）頑張りましょうね。一番大事なことは、「自分で考えられる人」になることです。考えるために、いろいろな人の話や、読書が役立つのですね。どんな質問でもいいから、またお手紙くださいね。

ボクもまた、喜んで、手紙を書きましょう。

あなたを産んで、ここまで育ててくださったご両親に、心からお礼が言えて、あなたの周りで心配してくださる人たちに感謝して、素直なあなたを取り戻してくださいね。

まだ、あなたに会っていないけど、きっと、可愛い、やさしい、思いやりのある女性だと思います。会える日を楽しみにしています。それまでは、お手紙でね。

おかあさんが、言ったかと思いますが、ボクは昨年、軽い脳梗塞になり、右半身が軽く痺れています。
（見た目には分からないのだが）だから、手紙は、

手で書くと何枚も書き直さなくてはなりません。パソコンならいつでも書くことができます。直筆ではなくてごめんなさい。お許しを。

お元気でね。

まだ見ぬ、真奈美さんへ

平成 13 年 11 月 27 日

水本治男

と、手紙を書いて出しました。それから何通か、手紙交換をして、やがて、執行猶予で、出てきましたので、会いました。今すぐはおちばに帰られないが、いつでも連絡はできるようになってます。また、同じく留置場にいた方が、拘置所に移動して、判決で実刑となり、刑務所に送られました。いづれの方々とも、おたすけには時間がかかりますが、手紙を書いて元気づけ、勇気づけてあげることが、今、私にできることだと思っています。

取り留めのない話になりましたが、
諭達を何度も読み返して見ると、

なさない とのよにしやんしたとても 人をたす
ける心ないので 12-90

「ようぼくお互いは、その使命を自覚し、勇気を奮って人々の心の扉をたたき、心の闇を開くべく努力を傾けよう。」とお教え下さり、更に、「心機を一転して」「奮起と実動」をお促し下されています。

先ず、かしの身体をもっと喜んで、内にたんのう、外にひのきしん、世界たすけに向かって、勇んでつとめさせて頂きたいと考えています。

ご静聴ありがとうございました。